〔安全教育に係る協力活動〕

令和5年度 第2回安全教育研修実施記録

原子力事業所安全協力協定第3条第1項第2号に基づく安全教育に係る協力活動について、「令和5年度原子力事業所安全協力協定年間活動基本計画」に基づき、以下のとおり、令和5年度第2回安全教育研修を実施した。

1. 日 時 : 令和6年2月5日(月) 13:10~16:40

2. 場 所 : 日本原子力発電株式会社 東海事業本部 東海総合研修センター

【講話】 研修棟1階 A教室

【実習】 研修棟2階 第2実習室

フルスコープシミュレータ建屋 教育シミュレータ室

【見学】 フルスコープシミュレータ建屋 東ニシミュレータ室

3. 受講者 : 協定加盟4事業所から6名参加

4. 研修目的: 協定加盟事業所の研修施設等を活用して開催する原子力施設の安全に関

する基礎研修を通じて、協定加盟事業所従業員等の資質向上を図る。

5. 研修概要:

【講話】

(1) 東海第二発電所の近況について

〔30分 総務室 渉外・報道グループ 服部講師〕

【実習】

(1) 身の周りの放射線測定体験 〔50分 折山講師〕

(2)シミュレータによる運転体験 〔50分 市原講師〕

【見学】

(1) 東海第二発電所フルスコープシミュレータ見学 〔20分 市原講師〕

6. 実施結果

はじめに、研修棟 1 階A教室に集合し、東海総合研修センターの佐野所長から挨拶をいただき、引き続き東海第二発電所の総務室 渉外・報道グループ服部講師から、東海第二発電所の近況として、福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえた安全性向上対策である防潮堤の建設、電源確保の多様化、原子炉などの冷却機能の多様化、水素爆発の防止・放射性物質の拡散抑制、耐震性の確保及びテロ対策等の東海第二発電所の安全性向上対策の実施状況について講話が行われた。

その後、折山講師による「身の周りの放射線測定体験」と市原講師による「シミュレータによる運転体験」の実習が行われた。

「身の周りの放射線測定体験」では、実習室内の空間線量率の測定、実習室内等の浮遊塵の採取・測定の他、乾燥昆布、入浴剤などの身の周り品の放射線測定実習が行われた。

また、「シミュレータによる運転体験」では、火力発電所と原子力発電所の仕組みについて説明を受けた後、教育シミュレータを操作し、運転中の原子炉に制御棒を挿入して反応度を低下させたり、原子炉が緊急停止すること等を体験することができた。

最後に「東海第二発電所フルスコープシミュレータ見学」が行われた。

東海第二発電所の中央制御室の実寸モデルの見学では、3.11 の福島第一原子力発電所の中央制御室の状況が再現された。制御盤に表示された原子炉内の変化や制御盤上部に設置された警報盤の警報窓が、警報音とともに一斉に点灯する様を、そして全電源喪失により発電所設備の停止、室内照明や警報窓の表示が消灯し、暗くなった制御室内(訓練用のため安全面を考慮した照度は確保)の状況を体験することができた

研修後に実施したアンケートでは、東海第二発電所の近況については、「安全性向上対策工事等の近況を知り勉強になった。」、「再稼働に向けて、安全対策のための工事を進めていることを理解できた。」、「福一の事象を受け、津波や地震に対しての深層防護が徹底されていると感じた。」、「安全性向上対策工事について、わかりやすい資料・説明であった。」等の意見があった。

身の周りの放射線測定実習については、「実際に体験できることは参考になった。」 との意見があった。

シミュレータ運転体験及びフルスコープシミュレータ見学については、「原子炉を実際にどう制御しているのかを体験することができた。」、「シミュレータを操作対応している様子(運転員の訓練等)を見てみたい。」、「はじめて他のプラントのシミュレータを見学することができたので非常に参考となった。」等の意見があった。

カリキュラムや日程を含め研修全般にわたり、「フルスコープシミュレータは、臨場感があり勉強になった。」、「シミュレータについての時間が短いので体験できる時間を増やして欲しい。」、「とても勉強になりました。私自身東海村で育ってきたため、JCOの時や震災の時など、こういうことが起っていたんだと大変良くわかりました。」等の意見をいただき、大変好評であった。

【オリエンテーション】



(オリエンテーション)



(挨拶•佐野所長)

【研修風景】

①講話「東海第二発電所の近況について」・総務室 渉外・報道グループ 服部講師





② 実習「身の周りの放射線測定体験」・・・・東海総合研修センター 折山講師





③ 実習「シミュレータによる運転体験」・・・・東海総合研修センター 市原講師





以上